

【劇団紹介】

劇団風の子九州は、1985年劇団風の子より独立して誕生した、九州の福岡に本拠点を置く児童青少年演劇の専門職業劇団です。“子どものいるところ どこへでも とんでいく”を合言葉に、九州・沖縄各地の街中や山間部の集落、点在する離島を駆け回ってきました。

1990年からは国内だけでなく、韓国・中国・インドネシア・パキスタン・インド・オーストラリアなど、アジアを中心に海外公演にも出かけ、多くの人たちとの交流を深めてきています。

2002年からは、韓国の劇団サダリとの合同公演『マンナム』を創り、上演してきました。アジテジ（国際児童青少年舞台芸術協会）の国際フェスティバルinソウルでは、日本代表としても参加しました。

これからも地域で、“子どもたちと共に未来を創る劇団”として、従来の演劇様式にこだわらず、遊びや日常生活の中から、新しい創造と表現の世界を追求し、広げていきたいと思っています。



どんぶらこっこどんどこ亭



日記図書館



ハイハイ、ごろ〜ん。



びーかぶー



モンモランド



やだやだ、あっかんべー！



このゆびと〜まれ！



風の子あそびやとっぴんしゃん



あそび箱

【主な受賞作品】

- 【2019年度児童福祉文化賞】
 - ・「ハイハイ、ごろ〜ん。」
- 【社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦作品】
 - ・「マンナム」
 - ・「なるほ堂ものがたり」
 - ・「あそび箱」
- 【厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財】
 - ・「にっこりほっかり座」
 - ・「風の子あそびやとっぴんしゃん」
 - ・「そのウソ、ほんと？」
 - ・「QUESTION」
 - ・「いらっしゃい」
 - ・「びーかぶー」
 - ・「やだ、やだ、あっかんべー！」
 - ・「どんぶらこっこどんどこ亭」
 - ・「いまからいえてにいきます」

創立以来現在までに 30 作品を制作。

これからも上質の作品を創り続けて参ります。



本物の友情は、心と体のぶつかり合いから生まれる！



ナゾの店「なるほ堂」が、ボクたちに勇気を与えてくれた。

なるほ堂 ものがたり

【スタッフ】

- 原案/台本プロジェクト (あさのゆみこ おやまじゅん 仮屋祐一 後藤尚子 山本佐助 中島研)
- 脚色/山本佐助 ■台本・演出/あさのゆみこ
- 音楽・効果/曲尾友克 ■美術/小峯三奈
- 歯車設計/北川正憲 (絡線屋) ■美術協力/保坂真紀
- 衣裳製作/りうや ■制作/仮屋祐一



【あらすじ】

いつも一緒にいるサトシとリョウタ。ふたりでゲームをしたりまんがを読んだりしている、仲の良い友達です。

ある日、町を歩いていると、不思議なおじさんが目の前を通りすぎます。なんだか気になっておじさんをつけていくふたり。おじさんは『なるほ堂』という店に入っていました。…あれ、ちょっと待てよ。ここにこんな店あったっけ？ふたりが中をのぞくと、そこにはヘンな物や不思議なものがいっぱい！

はてさて、『なるほ堂』とはいったい…？彼らを待ちうけているものはなんでしょう。ファンタジックでリアルな冒険のはじまりです。

【制作にあたって】

その昔、狼に育てられた姉妹がいました。彼女たちは発見された後、人間の社会で生活を始めますが、適応できず、早々に亡くなってしまったと聞いたことがあります。これが21世紀の現代なら「電化製品に育てられた子どもたちがいました」となるのでしょうか。

人は、生まれ、たくさんの人たちと関わってこそ「人間」としての成長が保障されます。わずらわしいことではありますが、時には友達とけんかしたり、おとなから叱られたり、または仲間たちとちょっぴり「悪いこと」もしながら。そうやって、自分自身を出したり抑えたり、人を受け入れたり離れたりしながら、豊かな人間関係を築く力を養うのが「子ども時代」なのでしょう。

『なるほ堂ものがたり』に登場するふたりの少年は、いつも一緒にいるあいまいな親友同士。ひとりには怖いし、傷つくのはもっと怖い。だから本当の気持ちは言わないままです。そんなふたりが足を踏み入れた『なるほ堂』。はてさて、なにが起こるのやら。

子どもたちは「未来」です。未来は彼らの手の中にあります。だからこそ、一度しかない子ども時代を子どもとして、一度しかない人生を人間として生きる。わたしたちおとなは、そのための環境を整える視点を持って生きていく必要を感じています。

演出の つぶやき



中学1年生のとき先生が言ったことをふと思い出した。「ひとは歯車。相手がいて自分がいてやっと回り出す。ひとの力を借りて自分があるんだよ」この舞台は、歯車のセットがポイント。テーマは直球ド真中で「コミュニケーション」。メールやネットでの会話、今日あそぼう！と放課後会っても、ゲームやマンガをそれぞれやるだけの「友達」…そんな現代の子どもたちサトシとリョウタが、2200年の未来からやってきた旅人・なるほ堂店主桐野三郎に出会って起きる大騒動。はてさて、どうなる…？



サトシとリョウタ ふたりは親友…？



あやしいじーちゃんに会う。
なるほ堂店主 桐野三郎



あれれ、
ふたりの仲がギクシャク



なるほ道具はおもしろい。
買いまくってどんどん使っちゃえ!!



あ！
またしてもあやしい男



ふたりの運命やいかに!?

【感想文】

おじいさんのはつめいがすごくおもしろかったです。ちゅんじだまでちゅんじするところがおもしろかったです。(1年生)

はぐるまが家になるところがすごかったです。おじいちゃんがじめんの中みだいなところにいたから、どこにどあがあるのかなあと思いました。(2年生)

とてもたのしかったです。声が大きかったです。すごいなあとおもいました。気持ちをいうとうたがながれてくるのがほしいです。なぜかといううたがすきだからです。(3年生)

サトシとリョウタがけんかをして、あととなかなおりをしたところがよかったです。あとヘルメットのような物をかぶってかこのことが分かるなんてすごかったです。(4年生)

リョウタとサトシはともだちだったけどけんかをしてしまった。でもごめんねとちゃんとあやまってかなおりをしたので、ほくはすごいなと思いました。(4年生)

とっても楽しい劇をありがとうございました！私はこのような楽しい劇を見ると、気持ちがワクワクしてきます。こんなときにあの

音楽たいがいならなあ…。なんか、ほかの世界に行ってしまったみたいでした。私のワクワクの気持ちをわかってくれて、本当にありがとうございました！(5年生)

今日『なるほ堂ものがたり』を鑑賞して、200年後の世界はコンピューターばかりの世界になっていると聞いて、本当にそうなるかわからないけど、なっていたらいやだと思いました。そうならないためにも、これから自分の意見はきちんと相手に伝えて、人の心を忘れない世界にしたいなと思いました。(6年生)

ほくはこの演劇を鑑賞して、友達はかけがえのない存在だと思いました。なぜなら友達がいないとわらったり、けんかしたりできないからです。あと相談したり自分の気持ちを打ち明けられませんか。これからは、もっと今まで以上に友達を大切にしていきたいです。(6年生)

今の子どもたちを象徴している内容で考えさせられました。でも、きっと何かきっかけがあればちゃんと自分たちで考えたり行動したりできるんですね。誰かが、子どもたちは今も昔も変わらない。変わったのは子どもを取り巻く環境だと言っていました。風の子九州のお芝居を見ていると、本当にそうだと思います。そして、子どもたちの笑い声を聞いて、ほっとします。(おとな)